

令和5年度 東京都立七生特別支援学校 学校経営報告

I 今年度の取組目標等に関する自己評価

1 安全で安心な教育環境の整備

- (1) 事故防止週間、安全指導日、全校ケース会議、不審者対応訓練、教職員向け事故防止研修等、年間を通じた事故防止対策の徹底により、東京都教育委員会に報告した事故は0件であり、安全管理意識の向上及び安全な学校生活のための指導を進めることができた。
- (2) 教職員向け服務事故防止研修、学校いじめ対策委員会や学校サポート会議の設定、ふれあい月間における防止活動の徹底等により、いじめや体罰、不適切な指導の根絶を図ることができた。
- (3) スクールバス安全運行支援員の配置により、児童・生徒の乗降確認の徹底、スクールバス懇談会や乗務員向け会議等の実施により、スクールバスの安全な運行を徹底することができた。
- (4) 保護者との連携による服薬やアレルギー等への安全な対応、専門医師による口腔機能のアセスメントに基づく食形態への対応、各種通信の発行による啓発、給食委託業者との密な連携により適切な保健管理、保健指導及び安全な給食の提供を進めることができた。
- (5) 教育委員会や保健所、学校医等との連携の下、感染症対策ガイドラインに基づく児童・生徒の健康・安全に配慮した対応、警察・消防との連携による各種訓練や安全点検の実施、防災教育推進委員会及び防災の専門家を活用した発災時に係る危機管理対策を徹底することができた。

★インフルエンザ感染者数増加に伴う学年閉鎖措置3学年実施

2 人権を尊重し、個々の教育的ニーズに応じた教育の推進

- (1) 人権に配慮した呼称、態度及び言葉遣いの徹底、アセスメントに基づく個別指導計画の作成・実施、評価、一人一人の状況や障害特性に応じた指導、教材作成及び学習環境の整備等、自分の感情を適切に表現する力、自己肯定感や自己有用感を育む指導の徹底等により、一人一人の状況に応じた人権を尊重する教育を推進することができた。
- (2) 生活年齢や障害特性に応じたICT機器を活用した指導を推進することができた。
★授業における児童・生徒のデジタル端末使用率93%
- (3) 中高作業学習充実プロジェクトの展開により、中学部作業学習における「働く意欲」指導内容を策定し、中学部及び高等部の作業学習の系統性が図られた。
- (4) 希望進路の実現に向けた学習活動及び進路指導（作業学習、産業現場等における実習、各種検定等）、主権者教育、部活動、学校全体で取り組むさん付け呼称、語先後礼の挨拶を徹底し、一人一人に応じた自立と社会参加を見据えたキャリア教育を高等部全体で進めることができた。
- (5) 担任と保健室の連携による児童・生徒の健康管理、体力テストの活用、食育及び健康指導の推進（健康診断、歯科保健指導、学校保健委員会）、SNSの適切な使用、健全育成に関する教育の充実、講師招聘によるがん教育の実施（高1）、安全な体育活動の実施及び事故発生時の適切な対応の徹底により、心身の健康の維持増進や体力の向上及び事故防止を徹底することができた。
- (6) 読書活動及び図書室充実プロジェクトの推進により、蔵書の充実、貸出システム構築、委員会活動、新規購入図書紹介スペース創設など、読書活動の充実が図られた。 ★年間貸出748冊

3 社会に開かれた学校づくりの推進

(1) 個別指導計画の作成、実施及び評価、個別面談、授業参観、保護者会、日々の連絡帳などを通して、保護者や七生福祉園との連携を円滑に進めることができた。

(2) 各種通信、ホームページ、学校公開等、保護者会、進路見学会、進路便り、進路個別面談、進路情報室の活用など、学校情報の積極的な発信による理解啓発を進めることができた。

★情報発信に関する保護者満足度94%

(3) 地域の小・中学校及び高等学校との交流及び共同学習、出前授業、交流教育連絡会、市内幼稚園、保育園、小・中学校への支援、都立高校における発達障害教育の推進に向けた支援、日野市教育委員会との連携（就学支援委員会、研修・相談等支援、日野市研究事業への協力、支援）等を通して、特別支援教育のセンター的機能を発揮することができた。

★小中学校への支援（24回）、高校支援（地区情報交換会1回、7校9課程）

★副籍直接交流（小学部35名、中学部5名計40名の実施）、4校交流のべ15回実施

(4) 学校生活支援シート作成、支援会議、放課後等デイサービス事業所連絡会、事業所説明会等を通して、生活支援機関及び就労機関との連携を進めることができた。都立学校開放事業として本人講座の開催、明星大学学生インターンシップ受け入れ、帝京大学との教育連携推進、外部人材の活用による教育活動の充実など、地域人材・資源活用による教育の充実を図ることができた。

4 教職員の専門性向上及びミドルリーダー育成の推進

(1) 外部講師による研修会実施、SOD推進プロジェクトを活用した模範授業及び模範的支援方法の紹介動画作成及びデータベース化による知的障害教育の専門性及び授業力の向上に貢献した。

(2) 児童・生徒がICT機器を活用する授業を一人1回研究授業で実践、指導事例集の作成、端末操作活用研修会実施などを通して、デジタル技術活用力の向上が図られた。

★授業におけるICT機器活率93%

(3) 企画調整会議や主幹会議の活用及び所掌部署の円滑な進行管理、取組目標管理により主幹教諭のマネジメント力の向上が図られた。主幹教諭との連携による円滑な学部学年、分掌部運営を通じた主任教諭のマネジメント力の向上が図られた。学校経営セミナー、学校マネジメント講座等を受講させ、次代を担う人材の発掘及び育成を図ることができた。

5 教職員のライフ・ワーク・バランスを踏まえた適正で効率的な学校経営の推進

(1) 服務事故防止研修の活用（年4回実施）、個人端末及び保有個人情報の適正管理の徹底（マニュアルに基づく管理・点検の徹底）に関する朝会や連絡会等を活用した周知や事件事例報告、人権に配慮した言動や挨拶の励行（毎日）など、法令等に基づく厳正な服務規律の徹底を進めることができた。

(2) ラインを活用した円滑な情報共有による組織的な運営、主幹会議を活用した学校経営計画の具現化の推進など、主幹教諭及び経営企画室長を中心とした学校運営を進めることができた。

(3) ペーパーレス等会議の効率化の推進（主要会議）、4S（整理、整頓、清掃、清潔）及びクリーンデスクの徹底（毎日）、学校閉庁日（年5日）、マイ定時退庁日（週1日）、定時退庁ウィーク（夏季休業中1週間）の活用、育児・介護支援及び休暇制度の活用の促進、教職員の健康管理の推進、産業医による面接指導などの取組を通して、働き方改革を進めることができた。

★教職員の時間外在校時間月45時間以下達成率80%、安全衛生委員会年12回、職員健康診断等受診率100%

(4) 各業務の円滑で適正な遂行、就学奨励費研修会や事務処理等を通じた教員の経営企画室業務の理解促進、教員との連携による予算執行等を通じた行政系職員のエduk活動の理解促進、敷地内植栽の管理、ごみの減量やリサイクル化推進、校内美化、施設維持管理等の業務を通じた学校環境

保全の推進等々、経営企画室業務の円滑で適正な遂行と積極的な経営参画を進めることができた。

★自律経営推進予算一般需用費センター契約執行率62%

(5) 学校評価等を活用し、学校運営の点検及び改善を進めることができた。

★学校評価アンケート回収率95%

★人権に配慮した指導に対する保護者満足度98%

★個別指導計画に対する学校評価の保護者満足度99%

★中学部高等部生徒の学校生活満足度97%

II 次年度の課題と改善策

1 安全で安心な教育環境の整備

- ・人権尊重教育の推進
- ・ガイドラインに基づく感染症対策の徹底

2 人権を尊重し、個々の教育的ニーズに応じた教育の推進

- ・デジタル教材及び機器の活用による教育活動の充実
- ・教育活動の安全な実施に向けた事前準備の徹底

3 社会に開かれた学校づくりの推進

- ・地域資源や外部人材の活用による教育活動の充実
- ・ニーズに応じた情報発信の推進

4 教職員の専門性向上及びミドルリーダー育成の推進

- ・3観点を意識した授業づくりの推進
- ・知的障害教育の専門性の向上
- ・職層に応じた教職員の育成の推進

5 教職員のライフ・ワーク・バランスを踏まえた適正で効率的な学校経営の推進

- ・主幹教諭及び経営企画室長を中心とした学校運営の推進
- ・適正で効率的効果的な業務遂行の推進
- ・働き方改革の推進による教職員のウェルビーイングの向上